

平成30年度 学校評価報告書

練馬区立豊玉中学校

校長 栗原 満

1 自己評価結果

(1) 概要

生徒、保護者、地域関係者、教職員のアンケート調査、意識調査をもとに、年度末に教職員が自己評価を行った。この結果をまとめると以下のようになった。

ア 今年度の成果

- ① 全校体制による授業規律の徹底
- ② 少人数習熟度別教育の充実（肯定的評価率 生徒 83.2%）
- ③ 生徒の自治的な活動（肯定的評価率 生徒 83.6%）
- ④ 体育的行事・部活動の充実（肯定的評価率 生徒 92.5%）
- ⑤ 給食指導・食育の充実（肯定的評価率 生徒 85.0%）
- ⑥ 地域ボランティア活動の推進（肯定的評価率 生徒 84.5%）
- ⑦ 小中連携の充実（肯定的評価率 生徒 84.5%）

イ 次年度への課題

- ① 新学習指導要領の実施に向けた授業改善の推進
- ② ICT教育の活用（肯定的評価率 教員 64.7% 生徒 77.9%）
- ③ 英語教育の推進
- ④ 道徳教育の推進
- ⑤ 望ましい社会性や勤労観・職業観の育成

ウ 次年度に向けた改善策

- ① 生徒一人一人の課題とその解決策を明確にし、習熟度別少人数指導の充実を図る等、授業改善を推進する。
- ② 全教育活動を通じて、ICT教育と思考力・判断力・表現力等を育むために言語活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びができる教育活動の実現を図る。
- ③ 小学校からの英語教育の連続性を踏まえ、4技能（話す・聞く・読む・書く）のバランスのとれたコミュニケーション能力の基礎を培う英語教育を推進する。
- ④ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度を育む。
- ⑤ 「職場訪問」や「職場体験」、地域人材を活用した「働く人から学ぶ会」等を通じて社会の一員としての自覚を促すとともに、望ましい社会性や勤労観・職業観を育成する。

(2) 根拠となる資料

平成30年度豊玉中学校の学校経営に関する意識調査結果（教職員・学校評議員・保護者・生徒）

指標【とてもそう思う】【どちらかと言えばそう思う】（肯定的評価）

【どちらかと言えばそう思わない】【まったくそう思わない】（否定的評価）

【わからない】（不明）

平成30年度 豊玉中学校の学校経営に関する意識調査

(教職員・評議員・保護者・生徒)

| | 中期短期経営目標 | 具体的方策 | 対象 | 肯定的 評価率 | 否定的 評価率 | 不明 |
|-----------|--|--|-------|------------|------------|-------|
| 学力の向上 | 確かな学力の定着 わかりやすい授業を目指し、教師は指導力向上のために研究・研修を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校が全体として、前向きに授業を公開し、授業改善に向けた取り組みを行っている。 満点テストなど意欲を高める工夫やわかりやすい授業を実践している。 生徒が、自分から進んで「主体的に考える学習」が行われている。 | 教職員 | 88.9% | 5.6% | 5.6% |
| | | | 評議員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 保護者 | 68.7% | 17.9% | 13.4% |
| | | | 生徒 | 77.9% | 16.4% | 5.8% |
| | 個に応じた指導 小規模校の特性を生かし、生徒理解に基づいた丁寧な個別指導を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 日常的な個別指導を充実させている。 生徒の視点に立ち、その心情を踏まえた生徒指導を行っている。 小人教習熟度別の授業（数学・英語）など、一人一人の力に応じた学習活動が行われている。 | 教職員 | 77.8% | 22.2% | 0.0% |
| | | | 評議員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 保護者 | 56.0% | 32.8% | 11.2% |
| | 学校図書館、ICT機器の活用 学校図書、コンピュータなどを活用し、わかりやすい授業や校務の効率化を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校図書、コンピュータによる教材作成を進め、わかりやすい資料提供と効率的な校務処理を行う姿勢がうかがえる。 学校図書、ICT機器（PC、CD、DVD、バーコードリーダー、実物投影機、電子黒板など）を活用した学習活動が行われている。 | 教職員 | 64.7% | 29.4% | 5.9% |
| | | | 評議員 | 71.4% | 0.0% | 28.6% |
| 保護者 | | | 50.0% | 23.9% | 26.1% | |
| 豊かな人間性の育成 | 自治的な活動 生徒の自主的・自発的活動を促し、生徒会、委員会活動の活性化を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒による発表・報告会の実施など、日常的に学校内外のボランティア活動を活性化しようと努めている。 学級活動や生徒会活動を通して、生徒の自発的・自治的な活動が行われている。 | 教職員 | 94.1% | 5.9% | 0.0% |
| | | | 評議員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 保護者 | 85.1% | 8.2% | 6.7% |
| | | | 生徒 | 83.6% | 14.6% | 1.8% |
| | 言語環境の整備・道徳教育の充実 言語環境を整備し、道徳教育の充実に努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 爽やかなあいさつの励行を通して、互いを大切にするよう学級を基本とした指導を徹底し、偏見や差別を許さない人権に配慮した指導が行われている。 すすんで行うあいさつや道徳の授業などを通して、偏見や差別のないお互いを大切にする学習活動が行われている。 | 教職員 | 88.2% | 11.8% | 0.0% |
| | | | 評議員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 保護者 | 67.2% | 20.9% | 11.9% |
| | | | 生徒 | 79.6% | 18.1% | 2.2% |
| | 体験的な活動の充実 実行委員会等の組織を充実させ、体験的な活動の充実と豊中生としての自覚を高めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年を中心とした体験活動の実施や保護者への学年行事報告会の実施などを通して体験活動を充実させようとする態度が伝わる。 学校行事や学年を中心とした体験的な活動を通して、望ましい人間関係を築く取り組みが行われている。 | 教職員 | 88.2% | 11.8% | 0.0% |
| | | | 評議員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 保護者 | 82.8% | 11.9% | 5.2% |
| | | | 生徒 | 80.5% | 13.3% | 6.2% |
| 体力の向上 | 体育的行事・部活動の充実 全教職員が関わることにより、部活動を充実させている。 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者会の定期的な開催、各部活動による試合や発表会の実施などを通して、部活動を充実させようとしている。 運動会、臨海学校、スキー移動教室などの体育的行事や部活動を通して、心身を鍛え、体力の向上に取り組んでいる。 | 教職員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 評議員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 保護者 | 83.6% | 12.7% | 3.7% |
| | | | 生徒 | 92.5% | 4.9% | 2.7% |
| | 給食指導・食育の充実 給食指導を徹底させ、食育を充実させている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「ランチタイムキャンペーン」等を通して衛生管理を徹底するとともに喫食時間を十分に確保できるよう工夫して取り組んでいる。 手洗いやエプロンの着用の徹底、衛生面に気を付け、給食準備を素早く行い、食べる時間を十分に確保した取り組みが行われている。 | 教職員 | 88.2% | 11.8% | 0.0% |
| | | | 評議員 | 57.1% | 0.0% | 42.9% |
| | | | 保護者 | 67.2% | 11.9% | 20.9% |
| | | | 生徒 | 85.0% | 13.7% | 1.3% |
| 地域連携学校運営 | 地域ボランティア活動の推進 教職員・生徒の地域活動への参加拡充を行い、地域ボランティア活動を充実させている。 | <ul style="list-style-type: none"> 町会、関係諸機関、小学校、地域行事などへの生徒の参加を推進し、地域と一体になろうとする努力をしている。 生徒会が中心となり、地域行事などへのボランティア参加に積極的に取り組んでいる。 | 教職員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 評議員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 保護者 | 91.8% | 5.2% | 3.0% |
| | | | 生徒 | 84.5% | 12.8% | 2.7% |
| | 小中連携の充実 授業参観（地区協議会、研究発表会）を充実させ、地域小学校との連携強化を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 行事などにおける小学校との交流、校庭開放などの円滑な実施を通して、小学校との連携を強化しようとしている。 小学校で学んだことをより確かなものにするために、学び合い学習や小テスト（確認テスト）を取り入れた学習活動が行われている。 | 教職員 | 88.2% | 5.9% | 5.9% |
| | | | 評議員 | 85.7% | 0.0% | 14.3% |
| | | | 保護者 | 88.8% | 7.5% | 3.7% |
| | | | 生徒 | 84.5% | 13.3% | 2.2% |
| | 開かれた学校の推進 学校学年行事の公開、学校HPの充実などを行い、学校情報の公開を推進している。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校公開、学年茶話会の実施、HP更新など、学校情報を前向きに公開し、理解を得ようと努力している。 学校公開、学校だより、学年だより、学校HPなどを通して、積極的に学校の様子を伝える取り組みが行われている。 | 教職員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | | 評議員 | 100.0% | 0.0% | 0.0% |
| 保護者 | | | 76.9% | 17.2% | 6.0% | |
| 生徒 | | | 79.2% | 13.3% | 7.5% | |

2 学校関係者評価

ア 今年度の成果

- ① 学校全体は、大変落ち着いており、協調しながら学校生活を送る生徒が増加傾向にある。各学年には支援を要する生徒もいるが、授業規律は確立している。不登校対策等、様々な課題に学校をあげて取り組んだ成果である。
- ② 小中一貫教育を通して、母体小学校との連携を強化するとともに、道徳の評価に向けて、研究授業を展開し、教員の意識を高めることができた。
- ③ 生徒会の自治活動を中心に、ボランティア活動を通して地域と連携することができた。また、学校支援コーディネーターを通して、地域人材の活用が行われた。それらによって、学校の取組に対する地域、保護者の理解がより深まり、地域と学校が連携しながら生徒の社会性の育成を図れていることを再確認することができた。

イ 次年度への課題

- ① 生命の尊厳や人間を尊重する教育の推進
- ② 現実的な危機管理体制の構築
- ② 地域に根ざした特色ある学校づくり

ウ 次年度に向けた改善策

- ① 自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を、全教育活動の中で意図的・計画的に育成していく。特にいじめ、体罰は、許さない。認めない。生徒理解に基づき、安心して授業や学校行事に参加できるように、基本的な生活習慣を見直す。そのために教職員が極力、生徒に寄り添い、密着した指導を通して、改善を促すように努める。活力あふれる学校行事等を通し、生徒相互の人権意識を高めるなかで、基本的な生活習慣を確立し、社会性を身に付ける校風を築き上げる。
- ② 毎月の安全指導や避難訓練では、課題を明確にし組織的に取り組めるようにする。学校周辺で発生する危機に対して、対応可能な危機管理体制を確立する。生徒の実態を考慮に入れ、不審者対応、地震対策を含め、危機管理体制の確立を進める。保護者、地域、健全育成団体、関係諸機関にも幅広く働きかけ、一体となり取り組む。区一斉防災訓練では、地域を挙げて防災への意識が喚起できるように働きかける。
- ③ 学校公開日、学校評議員制度等を活用し、学校が抱える課題を可能な限り外部と共有し、改善策を提示していく。特に中学校区の小学校とは、児童会・生徒会共通のボランティア活動を推進し、子供たちが交流する場面を計画的に設定する。将来を見据えた小中一貫教育に関わる具体的な研究が推進できるように体制を整える。

3 評価結果の公表等

学校ホームページで公表するとともに、保護者会で資料を基に説明を行った。

4 次年度の学校改善に向けた校長としての見解

学校が地域の信頼に応え、家庭や地域と連携・協力していくために、保護者や地域住民などの意向を把握し、それを学校運営に反映していくことが大切である。「生徒を中心に据えた存在感のある学校づくり」の実現に向け、学校として取り組んだ教育活動を検証するために、学校評議員会の制度を活用し、地域と共に学校づくりを推進できるように努める。

「信頼と誇り」に基づいた学校力の向上を柱とし、「わかる授業」「活力あふれる学校行事」「規律ある学校生活」等を実現するために、授業改善、学力の向上、生徒と教師の信頼関係の確立等、学校にとって最も身近で基本的なことについて、教職員が共通理解に立ち、その成果が具体的に示されるように全校を挙げて取り組む。

活力ある学校づくりを推進する過程で、その中核を担うのは授業である。授業の充実を学校経営の基本に据える。生徒が生き生きと参加できる授業、生徒主体の授業を実現する。特に数学と英語においては、東京方式少人数習熟度別授業を導入し、生徒主体のきめ細かな授業が展開できるようにする。また、小学校からの英語教育の連続性を踏まえ、次年度は、4技能（話す・聞く・読む・書く）のバランスのとれたコミュニケーション能力の基礎を培う英語教育を推進する。

様々な地域との触れ合いを通して、学校に対する保護者、地域住民の期待感の大きさを実感している。本年度は、地域、保護者と学校が一体となった取り組みを通して、相互の信頼関係を一層強固なものにすることができた。